

ミャンマー紀行

関東甲信越支部 No.951 杉山 次郎

2011年9月14日、18時45分、バンコクからヤンゴン空港に降り立つ。入国手続が遅い、ミャンマー国民のレーンが早々と手続終了しても長いレーンの外国人手続を助けることはない。しかも一人ひとりの手続に時間を要する。入国後、先ずやる必要がある。それは別棟の国内線にある Air Mandalay の事務所で2日後に向かうバガン (Bagan) 行きの航空券を購入することだ。この予約はインターネットで、半額クレジット決済済んでいたが、残額はヤンゴンでUS \$ 現金を支払うよう指示を受けていた。空港からホテルに向かうが、ダウンタウンに近ずいてもネオンも少なく静かな感じ。投宿した Parkroyal Yangon は国際水準で申し分ない。

翌日はマーケットでの両替をかねて、街の中心部を歩いてみる。雑貨屋、特に衣料品関係の店が圧倒的に多い。品数は豊富だがほとんど安物。市街の北、シングッタヤの丘にそびえるシュエッタグオンパヤーは、人々の信仰を集める総本山的存在。豪華な仏塔が建ち並び、中心部の敷地は大理石が敷き詰められているので強烈な太陽に照りつけられても足元は平常心。

3日目早朝、ヤンゴンから Air Mandalay で Bagan へ。到着するやUS\$ 10 徴収される。文化財保護の基金にあてられるそう。

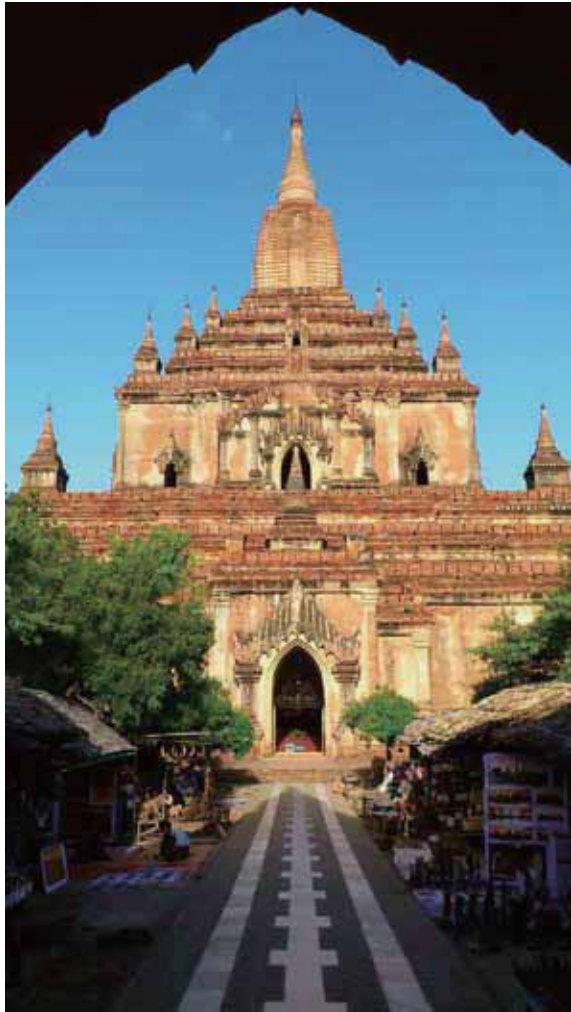
世界三大仏教遺跡は、カンボジアのアンコールワット、インドネシアのボロブドゥール、そしてミャンマーのバガン (Bagan) 遺跡だが、アンコールワットはヒンドゥ教寺院なのでは？との疑問が残ります。確かにアンコールワットはヒンドゥ教寺院として建立されたが、その後、仏教寺院へと改修されたので三大仏教

遺跡のひとつとしてカウントされます。

バガン遺跡はエーヤワディ川沿いの広大な平原に11-13世紀のバガン王国時代に造られた仏教遺跡が点在しています。王家や権力者が造った巨大なものから庶民が造った小さなものまで、当時は5000ぐらいの寺院、パゴダが建っていたと言われていました。いまは3000ぐらい残っています。

2日間に渡り、この広大な平原の遺跡群を馬車でみてまわりました。寺院やパゴダはヨーロッパの城を思わせるような荘厳なものから赤茶けている小さなものまで様々です。大平原(40平方km)に点在する幻想的な光景は朝、昼、夕と時間の経過により、その様が変わります。特に美しいのはエーヤワディ川の山向うに夕陽が沈んでいく夕刻です。





荘厳な寺院

シュエサンドーパヤーからの夕景は、歴史と旅情を感じられる絶景ポイントです。アンコールワットは一定敷地に遺跡が凝縮された点とすれば、バガンは平原に展開された面の遺跡です。

投宿した Bagan Thande Hotel は、エーヤワディ川に面したホテルで、かつて英王室ウィンザー公も滞在している。エーヤワディ川を前に沈み行く夕陽を見ながらのビールは格別であるが、川面を眺めながらの朝食も又さわやかである。バガンは日中、かなり暑いので馬車で回っても午前部が終われば、ホテルで2時間ほどのブレイクタイム。昼食後はプールサイドでのんびりして、再び午後部に出かけることになる。

バガンの南東50kmに、その山ポッパ山(1518m)がある。その麓に Taung Kalat と呼ばれる岩峰(737m)が地上から突き出ている、かなりきつい山道(階段)を上れば要塞のような寺院

がある。この頂上寺院からの眺めは、ポッパ山を望み見て絶景。ここはミャンマー土着信仰の聖地として沢山の人が訪れる。



ホッパ山麓

ヤンゴンに戻り3泊、この期間にミャンマー屈指の巡礼地チャイティーヨー、通称ゴールデンロックに行こうとしたが、雨季特有の激しい雨では山岳地帯危険なため断念。

このあとはヤンゴン在住の方々にとって聞いたことなど四方山話。

4年前の2007年9月に、反軍政デモで取材中の日本人ジャーナリストが死亡した事件がありました。当時の日本在住者には自宅に待機し決して出歩かないようにと大使館からの指示が出ていました。そんな中、取材とは言え写真を撮り続けた記者、警告の言葉も理解できず兵士の前に出て行き撃たれたのです。現地の日本人の間では、この国の軍は本気で発砲するので記者は用心を怠ったとみえています。

車は高価なので、走っている車は中古車が多い。ランドクルーザーは1000万円以上する。タクシーは、ぼろぼろで中にはドアが閉まらず

手でささえなければならぬものもある。タクシーは1日にガソリン2ガロンしか購入できず、それ以上は高くなるけれどブラックマーケットで買うしかない。

ミャンマーは産油国で原油はあるけれど、安価で中国やインドに輸出されている。しかもミャンマーでの精製は少なく、精製品を高い値段で輸入している。産油国がガソリンを輸入するのは滑稽な話である。この国は原油も、鉱物資源も豊富で豊かになるポテンシャルは高い。今までの軍事政権は表舞台にでず、2011年3月に民政に移行したが、未だ1000人ほどの政治犯が釈放されていないため、アメリカは経済封鎖を解除していない。アウンサンスーチンさんは軟禁を解かれ、今は自由に集会などに参加している。

今まで軍事独裁政権だったが、経済は共産主義でなかったため、金持ちは結構多い。

ネットは軍事政権が支配していたので、情報入手に制限がかけられているし、スピードはすこぶる遅い。

クレジットカードはヤンゴンの大きなホテルぐらいしか使えない。バガンのホテルも、航空券の支払いも、現地通貨でなくUS\$キャッシュを要求される。自国の通貨を喜ばないのは、それだけ国を信用していない証拠で、流動性の高いUS\$を好む。

『日経ビジネス』“伸びゆく世界都市100”で、ヤンゴン は28位にランクされている。ミャンマーの国民は物静かで、おとなしい人が多いので、これからが楽しみな国である。